



富士のさと SDGs調査団デイキャンプ

令和5年6月25日（日）

〇趣旨

SDGs への理解を深め、地球に生きる一人の人間として、2030年までに、自分自身が世界の課題へどのように関わっていくのかを考える機会とする。

〇参加者

小学校4～6年生 31名

(内訳：4年生20名・5年生8名・6年生3名)

視察者 3名

(教員1名・青少年教育関係団体指導者2名)



〇事業の内容

(1) SDGs ミッションウォークラリー

活動内容の紹介

所内に設置された17か所のポイントを制限時間内にできるだけ多く回り、より多くのSDGsの目標について知ることを目指す。ポイントによっては、「ミッション」が設けられており、体験的にSDGsや世界で起きている状況を学ぶことができる。

各ポイントに書かれた3択のクイズや、「命のメジャーで腕の周りを測ってみよう!」「グループで協力し、自然の中で軽いエクササイズを行いましょう!」「ごみの分別をしてみよう!」などのミッションに積極的に取り組む姿が見られた。



(2) SDGs クッキング

活動内容の紹介

使用する資源やゴミの量を最小限とすることを意識し、カレーやご飯はポリ袋を使って湯煎して調理する。ポリタンクで水の量を制限すること、ゴミの量を計量すること、薪を灰になるまで燃やし切ることを意識付けし、SDGsの観点を重視した野外炊事を実施する。

参加者にとっては慣れない調理方法であったが、どのようにしたら水を無駄なく使えるか、ゴミを少なくできるかなど考え、工夫しながら取り組んでいた。



(3) SDGs 調査報告

活動内容の紹介

SDGs ミッションウォークラリーの答え合わせおよび解説を行う。また、SDGs ミッションウォークラリーや SDGs クッキングなどの活動を経て考えたことや感じたことを仲間と共有し、SDGs の達成に向けた個人の「行動宣言」を立てる。

クイズの答え合わせをするときに、自分たちが住んでいる日本と世界の現状を比べ、現状を知るとその違いに驚く子供たちが多かった。答えを知ることが一番の目的ではなく、「現状を知った皆さんができることは何かあるかな」と声掛けをすると、自分たちができることは何かを常に考える姿が見られた。



(4) SDGs オリジナルストラップ作り

活動内容の紹介

丸木のプレートに、自分の「行動宣言」を書き、紐を通してオリジナルのストラップを作る。ストラップを鞆などにつけることで、行動宣言を実践できるようにする。

「ごはんを残さずに食べる」「節電する」「3Rを守りたい」など、一日の活動を通して感じたことや考えたことを目標として書き記している姿があった。



○参加者アンケートの分析

SDGs ミッションウォークラリーや野外炊事、「SDGs 調査報告」での振り返りを通して、事業での体験や学びを日常生活への具体的な行動宣言につなげようとする意識の変容がうかがえた。

(例) 小学4年生男子

参加当時の状況：SDGs という言葉は聞いたことがあるが、説明することはできない(選択肢回答)

感想等：野外炊事で、水の大切さに気が付いた

行動宣言：水を大切に

○成果・●課題

○一日を通して SDGs に意識を向けたプログラムを設定したことで、具体的な目標として「行動宣言」につなげることができた。

○施設を利用する団体の教員や指導者にもご視察いただいたことで、団体としてプログラムを実施することを見据えたご意見やご助言を得られた。今後、特に「SDGs ミッションウォークラリー」を団体へ提供していくにあたって修正・改善すべき点が明確になった。

●秋以降に当施設をご利用予定の団体へ向けて、「SDGs ミッションウォークラリー」を活動プログラムの一つとして活用していただけるよう広報していく必要がある。